

令和2年6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市の水田で見られるカエル

青梅市では5月の半ばから6月にかけて田植えが行われ、カエルたちの季節がやってきます。これまで青梅市では4科12種のカエルが確認されていますが、そのうち水田でよく見られるのは、アマガエル科のニホンアマガエル、アオガエル科のシュレーゲルアオガエル、アカガエル科のトウキョウダルマガエルの3種です(青梅自然誌研究グループ、2013)。

アマガエル科のニホンアマガエルとアオガエル科のシュレーゲルアオガエルは緑色の小さなカエルで、青梅市内では東側の平地や丘陵地で多くみられます(図1・図2)。ニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエルは水田や池沼に産卵するのですが、青梅市ではため池が少ないため、水田が残っている市内の東側に偏って分布していると考えられます。なお、シュレーゲルアオガエルの名前はドイツ人研究者の名前からとったものですが、れっきとした日本在来の両生類です。

一方、アカガエル科のトウキョウダルマガエルは「とのさまがえる殿様蛙」と呼ばれるカエルで、褐色や緑色の下地に黒っぽい斑紋で彩られた体色をしています。ニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエルと同じく水田で産卵をしますが、これら2種に比べて、より広い水田を好むため、青梅市内では水田が最もまとまって残っている3か所でしか見られなくなっています(図3)。

山がちの青梅市でも昭和30年代には

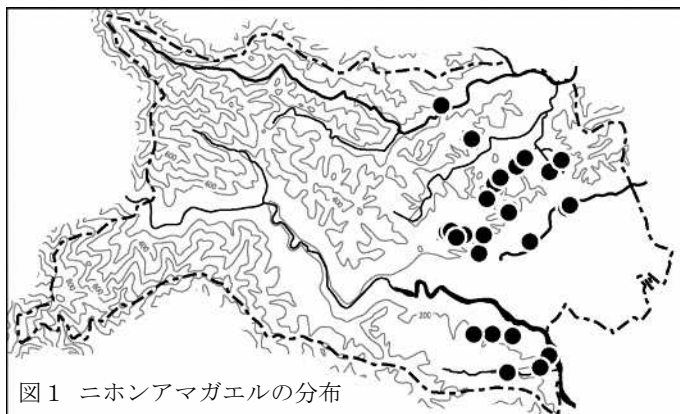


図1 ニホンアマガエルの分布

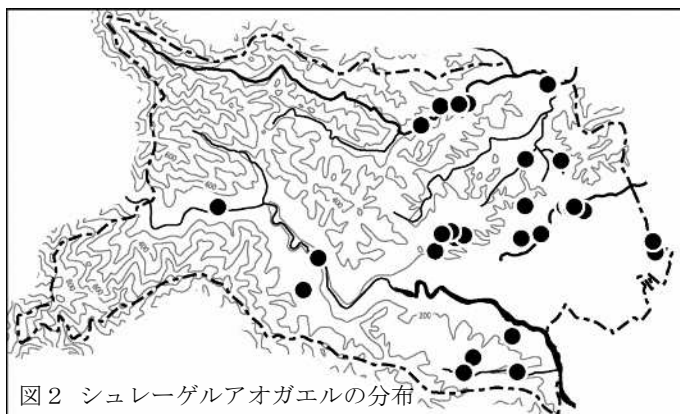


図2 シュレーゲルアオガエルの分布

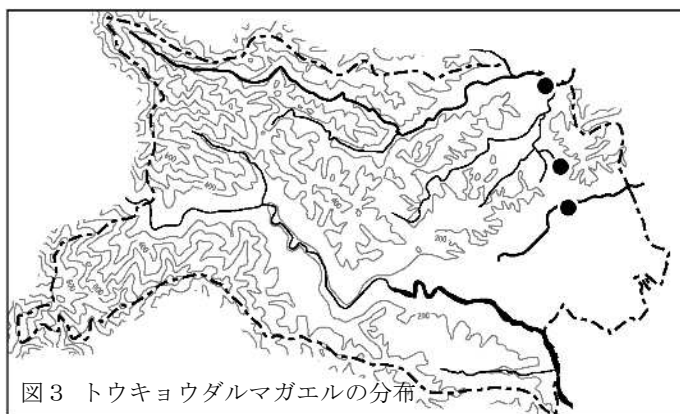


図3 トウキョウダルマガエルの分布

多摩川沿いの低地や丘陵地の谷戸には水田が広がっていました(図4)。しかし、生産性が低い小規模な水田はだんだん耕作されなくなり、平成期の半ばごろには残った水田も小さく断片化してしまいました(図5)。この間に、水田の面積は1/6にまで減少しており(青梅市、2007、青梅市史編さん委員会、1995)、水田のカエルの棲み処は減少の一途をたどっています。

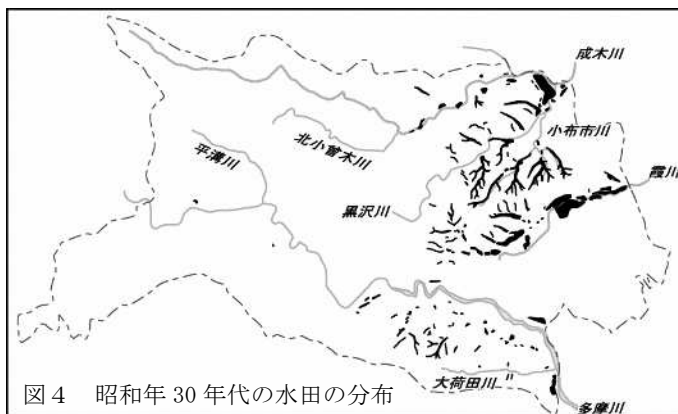


図4 昭和年30年代の水田の分布

カエル類の減少傾向は東京都全体でも同様で、東京都の絶滅のおそれのある野生生物を掲載した「レッドデータブック東京都 2013」(東京都環境局、2013)では、ニホンアマガエルとシュレーゲルアオガエルは「準絶滅危惧種」(NT)に、トウキョウダルマガエルはさらに絶滅のおそれが高い「絶滅危惧II類」(VU)にランクされています。

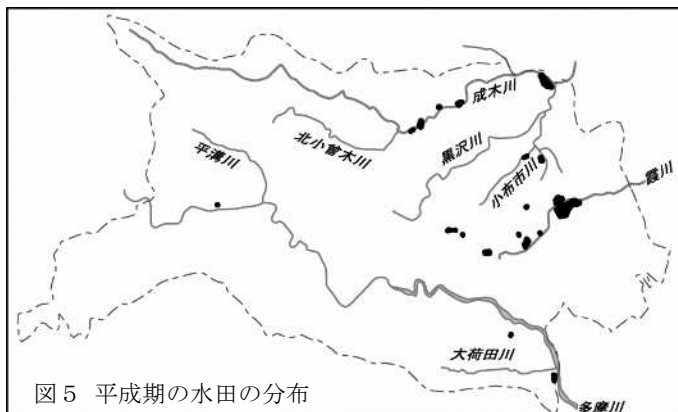


図5 平成期の水田の分布

古来から身近な生きものの代表であったカエルですが、今後も青梅市で生き続けていって行ってほしいと思います。

<参考文献>

- 青梅市、2007、青梅市の統計 平成18年度版、青梅市。
- 青梅市史編さん委員会、1995、青梅市史、青梅市。
- 青梅自然誌研究グループ、2008、青梅市の両生類、青梅自然誌研究グループ。
- 東京都環境局、2013、レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版、東京都環境局。

(文責 御手洗望)



トウキョウダルマガエル